

令和8年度《学校経営計画》

名張市立桔梗が丘東小学校

学校長 川合 哉

1 学校教育目標

「やる気・勇気・元気」の育成

2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちが「学校に行くのが楽しい」と思う学校 ○ 教職員が働く喜びを実感できる学校 ○ 保護者・地域に信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学び、行動する「やる気」のある子 ○ 友だちとつながり合い、共にチャレンジする「勇気」のある子 ○ いきいきと活動し、地域とつながる「元気」な子
○教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもに対する愛情や責任感をもち、子どもたちに寄り添う教職員 ○ 学力・体力向上を実現するために授業改善に努める教職員 ○ 「チーム東小」の一員として、つながり合い、組織的に取り組む教職員 ○ 保護者や地域住民の期待に応え、信頼される教職員
○保護者・地域像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校と連携して子どもを育てる保護者 ○ 学校と連携することで、教育効果を高める地域

3 学校の現状 本年度の改善方策

<p>(児童)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども達は全体的に明るく素直でのびのびと活動し、与えられたことに対して一生懸命取り組む様子が見られる。その一方で、生活習慣や学習習慣の定着や主体性、コミュニケーション力等に課題が見られる。 ○意見の交流はできるが、そこから自分の考えを表現したり、自分の言葉で積極的に伝えたりすることが苦手と感じている児童も多い。 <p>(教職員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全教職員で、子どもたちの豊かな学びと育ちに向けて取り組もうとする。 ○助け合い協力して課題の解決にあたらうとする姿勢がみられる。 <p>(保護者・地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校の教育活動に対して、保護者、地域は協力的であり、「あそびつくす in 東小」や「子どもを守る連絡会」など、学校・家庭・地域が連携して取り組む体制が整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○親和的な学級集団づくりを推進し、日々の授業や行事、体験な学習を通して子ども同士のつながりと居場所づくりをすすめる。児童会活動や委員会活動など自治的な活動を通して、子ども達一人ひとりが活躍する場を与え、成就感や自己有用感を育み、学校が子どもにとって楽しい場所となるよう工夫、改善する。 ○ペア・グループ学習など、対話を通して協働的に学習を進め、積極的に授業改善に取り組むことにより、基礎学習の定着とともに学ぶことの楽しさや達成感を味わわせ、それらの経験を積み重ねることにより、主体的に学び行動する力を養う。 ○教科担任制等により子どもたちを多角的に理解し、多くの教職員で、きめ細やかな指導・支援を充実させるとともに、子ども達一人ひとりの様子を把握し、安心して学べる学習環境を整える。 ○学校運営協議会を活用し、主体的な学校運営への参画を通して、学校の現状や目指す子どもの姿を共有し、保護者・地域との連携を深め、協働した取組を推進する。 ○「チーム東小」として元気あふれる職員集団であるため、コミュニケーションを通して働きやすいと感じる職場を目指し、働き方改革の推進に努める。
---	---

4 重点的な取組事項

番号	内 容	実 施 期 間				
		6	7	8	9	10
1	互いに認め合える集団づくりと居場所づくりをすすめる。	○	○	○		
2	主体的・協働的に課題を解決する力を養い、学習意欲の向上をめざす。	—	○	○		
3	家庭・地域と連携し、保護者・地域とともに子どもを育てる学校づくりを進める。	○	○	○		

5 令和8年度の重点目標

重点的な取組事項－1	互いに認め合える集団づくりと居場所づくりをすすめる。
A 今年度の成果目標	
「学校へ行くのが楽しい」「友だちのよいところを見つけることができる」と感じている児童の割合…90%以上	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	体験活動や児童会活動、学習場面において「肯定的な振り返り」により子どもたち相互が認め合い、教師が「褒める、認める」場面を意識的につくることにより児童の満足感、自己有用感を高める。
②	どの子どもも安心して学校生活を送れるよう特別支援教育の視点を大切にしながら教育を充実させるとともに、道徳観や人権意識を高め、互いを認め、支え合える豊かな心を育て、正しい行動を実践する力を育成する。
③	教室での観察やQ-U調査等を通じて子どもたちの思いや状況を把握し、また教科担任制等の利点を生かし、教職員間の情報共有を密にし、子ども同士がつながる活動、声かけなどの工夫を講じる。

重点的な取組事項－2	主体的・協働的に課題を解決する力を養い、学習意欲の向上をめざす。
A 今年度の成果目標	
「授業がよくわかる」と感じている児童の割合…90%以上	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	ペア学習やグループ学習など対話を通じた協働的な学習により子どもたちが「主体的に学ぶ喜び」を実感する授業づくりに取り組む。
②	学習意欲を高める授業づくりを目指し、授業改善に向けて校内研修を充実させる。
③	主体的に読み、子ども達の考えを深め合う活動を目指して、並行読書の取組を推進する。

重点的な取組事項－3	家庭・地域と連携し、信頼される地域とともにある学校づくりを進める。
A 今年度の成果目標	
「学校は、子ども達が安心、安全に過ごせるよう地域との協働に努めている」と感じている保護者の割合…90%以上	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	学校運営協議会での熟議を充実させ、授業参観・懇談等を行う中で、育ってほしい子どもの姿や成長した姿、子どもの願いを共有する。
②	「みんなでつくる みんなの桔梗が丘東小学校」を合い言葉に保護者、地域と協働、連携した学校教育活動をすすめる。
③	子どもたちの学習活動や生活状況等について、ホームページ・学校だよりや学年通信、地域の会議等で保護者、地域に情報発信・情報提供をする。

6 学校における働き方改革の推進に向けた取組

上限時間に基づく目標

成果指標①	1人当たりの月平均時間外労働	20時間以下
	年360時間を超える時間外労働者数	0人 (変更不可)
	月45時間を超える時間外労働者の延べ人数	0人 (変更不可)

具体的な方策

○タイムカードによる出勤・退勤時刻の把握の徹底により、時間外労働時間短縮に対する個々の意識改革を図る。

○会議の回数を精選し計画的な仕事運営をすることにより仕事の効率化を図る。

休暇取得促進の目標

成果指標②	1人当たりの年間休暇取得日数	20日以上 (各学校で設定)
-------	----------------	----------------

具体的な方策

○休暇取得に対する個々の意識を高め、職員相互の意思疎通を図り、協力することで休暇を取りやすい環境を創る。長期休業中を利用した休暇のまとめ取りの推進。

放課後の会議がない日など、時間単位で休暇が取れるよう働きかけをすすめる。

学校独自の取組

活動指標	設定した日の定時に退校できた職員の割合	60%以上
	予定通り休養日を実施できた部活動の割合	●%以上
	放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	60%以上

具体的な方策

○毎週金曜日を定時退校日に設定し、計画的勤務に努める。

○授業時数を確保した上での短縮日課等の開始時期の検討。

○会議資料の事前配布を進めるとともに、事項書に所要時間を明記する。

○ICTを活用した会議のペーパーレス化を進め、業務削減に繋げ、負担の軽減を図る。

7 コンプライアンスの推進に向けた取組

具体的な方策	○具体的な事案を取り上げたコンプライアンスミーティングを定期的実施し、職員間の会話を通して組織や個人としてのコンプライアンス違反への感度の上昇を図る。
--------	---